

今年4月に「武雄市子育て総合支援センター」のセンター長に就任された吉牟田美代子さん(74)。
初の民間人登用のセンター長として、その手腕に期待が集まる吉牟田さんにお話をうかがいました。

「生きる力」を 育てたい

吉牟田さんは、武雄市立武雄中学校の教員を務めた後、佐賀県体育保健課指導主事として県内各教育機関の現場を幅広く経験。保育学・体育学・舞踊学が専門で、現在は佐賀女子短期大学コミュニケーションレジ代表や活水女子大学非常勤講師を務めるなど、精力的に教育現場で活躍されています。



(記者)

このたびは、ご就任おめでとうございます。まずは、新センター長としての抱負をお聞かせ下さい。

(吉牟田)

4月の就任以来、武雄市内のすべての幼稚園・保育園・小中学校を訪ね、元気な子どもたちに出会いました。そこで、地域社会に見守られながら武雄っ子たちが健やかに成長している様子を垣間見ながら、各教育機関がより連携を深めることの重要性もあらためて感じました。そして、支援センターが、みんなが育ち合う場になれば、と考えています。

(記者)

吉牟田さんは、幼児から大学生まで、さまざまな教育の場で豊富な経験をお持ちで、その見識と実行力に期待する声が多いようです。

(吉牟田)

根を育てないと、花は咲かないと思います。いくら知識や規則を教えたとしても、豊かな感性や愛情、思いやり、物事に対する興味など、生きるための基礎的な力が身に付いていなければ、教育としてはバランスを失うのではないのでしょうか。

そういう意味で、乳幼児期の子育ては非常に大切です、その後の成長や進学の各段階で一貫性や連続性を持った教育が求められていると思います。

子育てモデルを 武雄から

(記者)

現代は、教育の場に求められる要素が年々多様化していますね。

(吉牟田)

子育て支援や保育・学校教育を行う職員や先生のスキルアップは必要です。そこで、子育て支援センターが、人材の育ち合う研修・教育の場になればと思っています。今後、研修プログラムをどんどん作って、実行します。

これまでの経験から、保育・教育者は、人間性と専門性の両輪が大切だと思います。

具体的には、「憧れられる存在感」「引きつける魅力」「なりきりの表現力」「夢中になるエネルギー」です。



そ大切に育てていきたい。

私が教員を目指す学生に行う授業で「新聞紙を二つに破いて下さい」と言つと、8割は真ん中から二等分しますが、残りの2割は斜めに破いたり、穴を開けたりすることがあります。そういう、一見して常識や秩序から外れた感性こ

子育て論や教育論は、それを論じる人の数だけあると言つても過言ではないでしょう。そこからどう学び、現場で活かすかは、個々の教育者の自由で主体的な発想にかかっています。

笑顔の先に教育がある

(吉牟田)

子どもはいつも、大人の愛情を求めています。振り返った時に、大人の優しいまなざしがあれば、子どもは安心できるのです。そこで、家族や地域の人々の見守りや言葉かけも重要になってきます。

今回は、ぜひとも武雄の役に立ちたいと思い、大役をお引き受けしました。子どもの成長とともに喜ぶ、笑顔の先にある子育ての力になればと考えておりますので、よろしくお願ひします。

(記者)

本日はどうもありがとうございました。